

富士北麓の輝きを知るフリーマガジン

シルベ!

@

巻頭特集

祭りばやしが聴こえる

vol. **05**

2017 夏・秋

グルメ特集

いま食べたい、匠の麺

エリア特集

コンパクトで個性あふれる 勝山

シルベ!レポート

富士北麓 子育てのリアル

特集

祭りばやしが 真実をこぼす

北麓の祭りを受け継ぐ人々

夏から秋へ向かうこの季節、「吉田の火祭り」や「河口湖湖上祭」を筆頭に、多くの祭りでにぎわう富士北麓。それぞれの祭りの伝統を守り、受け継いでいくには、何が必要なのだろうか。そのヒントを探るため、北麓を彩る個性あふれる祭りと、それを支える人々の姿を追った。

的を射抜かぬ、 孤高のやぶさめ

01
I

小室浅間神社 流鏝馬祭り(富士吉田市)

かつて、武士のたしなみであったやぶさめ。駆ける馬に乗ってのへ矢を射り、武芸を競う。全国各地にその伝統が残されているが、この小室浅間神社には、一風変わったやぶさめが残されている。

それは、的を射抜くことが目的ではない、農民たちのやぶさめだ。1週間に及ぶ「切火」という潔斎を経た奉仕者たちは、股引に襦袢といった庶民の装いで祭りに臨み、馬を飛ばす。その駆けた馬の蹄の形から、代々世襲の占人たちが13部落の吉凶を占う。その結果は各部落ごとに行われる「お日待ち」の場で発表される。800年間、休むことなく続けられてきたこの神事に迫る。

data

日程:9月18日(月)奉納馬による市内パレード、富士山神輿渡御ほか 9月19日(火)
例大祭、役馬疾走・馬蹄占い / 問い合わせ:小室浅間神社 TEL.0555-22-1025



うけつぐ人 流鏝馬保存会のみなさん

氏子総代を中心に組織する小室浅間神社流鏝馬保存会。神社と協力して祭りを主に取り仕切っている。今年、粟井英朗環境財団の助成を受け「潔斎館」の設備の改修を実施。60代が中心だが、次代の担い手にバトンを託そうと取り組んでいる。

1. 境内地で飼育されている神馬を見つめる、流鏝馬保存会の柏木会長 2. 祭り当日、多くの観衆が見守る前で披露されるやぶさめ 3. この馬の蹄で、地域の吉凶が占われる 4. 占いを一手に引き受けるのは、代々世襲の占人。その手法は秘伝となっている 5. 馬と一緒に拝礼する奉仕者たち(小室浅間神社提供) 6. 祭り当日の記念写真。簡素な装束からも、農民の祭りであることがわかる(小室浅間神社提供)



800年、農民が守り続けた
暮らしのための馬蹄占い

鎌倉時代から受け継がれてきたこの神事。独特の馬蹄占いの伝統は、なぜ生まれたのだろうか。

「昔は飢饉や災害に左右されやすかったですから、毎日が不安だったんです。それで、未来を神様に聞いてみたい」とそんな農民たちの切なる思いが、祭りの歴史をつくってきた。そしてもう一つ注目したのは、祭りの主役である馬。戦後でもない頃までは、どこの家庭にも馬がいて、生活の一部だった。馬主となってやぶさめに自分の馬を出すことは、家の誇りであり、馬に乗ることで喝采を浴びた。そんな「憧れ」こそが、この祭りが連綿と受け継がれてきた理由の一つなのかもしれない。

馬主、潔斎、そして神馬
形変え、次代に引き継ぐ



祭りの形は、時代に合わせて少しずつ変わってきている。かつて莫大な私財を必要とした馬主は、主催者のバックアップもあり、今は若者や地域外の人引き受けるケースも少なくない。昔は誰もが持っていた馬も、現在は周辺の牧場から借り受けるように。人間と一緒に潔斎を行い、訓練をしながら当日に備える。その潔斎も、現在は肉食や女性との接触を断つという基本はそのままにやや簡素化され、境内地の「潔斎館」を使って行われている。

「温故知新ですね。馬というシンボルを通して、この街の鎮守であるお宮さんを受け継ぐ意識を広げていければと思います」



おんなが担ぐ 祈りの神輿

02

1. 神輿に連なる女性たち。お腹の大きい妊婦さんも 2. 準備にも女性が関わる 3. 祭りの前には、明神山山頂の奥宮で祭礼が行われる 4. 荘厳な本殿 5. 安産を願う絵馬も奉納されている 6. 祭りでにぎわう境内 7. 祭神へ向け、ひときわ深い祈りをささげる女性（4,5 以外、すべて山中諏訪神社提供）



山中諏訪神社 安産祭り(山中湖村)

とかく「女人禁制」が多い祭礼や祭祀。しかし山中湖には、こんな常識を覆すような祭りが存在する。山中諏訪神社の安産祭りだ。文字通り、安産と子どもの健やかな成長を願うこの祭り。神社の祭神である豊玉姫命(とよたまひめのみこと)が安産の神様とされていることから始まった祭りで、江戸時代後期には成立した。9月4日の宵祭、9月5日の本祭では、妊婦などの女性たちが神輿に幾重にも連なり安産を願う。本祭で「もうそろ もうそろ」の神歌とともにご神木の周囲を神輿が廻る様子は、見る者を圧倒する。

data

日程:9月4日(月)宵祭り 例大祭、太鼓・神楽奉納、神輿渡御 9月5日(火)本祭り
太鼓・神楽奉納、神輿渡御 / 問い合わせ:山中諏訪神社 TEL.0555-62-3952

4



2



3



山里の母たち支えた 心のよりどころ

この祭りには昔から、山中地区はもとより、富士吉田や御殿場などから峠を越えて人出があった。鉄道馬車に乗って訪れる妊婦もあつたという。

「当時、お嫁さんには跡取りを生まなければいけないという空気が強かった。織物業の家も多かったですし、身ごもっても休む暇もない。この祭りは、そんな女性たちのよりどころだったのかもしれない」（坂本宮司）

孫の顔が見られるならと義父母から小遣いをもらい、この祭りで一瞬の安らぎを得た女性たち。力強い祭りを前に、勇気づけられたに違いない。だからこそ、安産の「ご利益」も語り継がれているのだろう。

祭りへ関わる喜びと 女性の祈りがつなぐ伝統

祭りの奉仕者は、毎年50軒ずつ持ち回りと決まっている。7年に1度の計算だ。ただ、祭りの前に身内の不幸があれば参加できないため、無事に奉仕者を務められるのは一族の喜び。その喜びが源泉となり、祭りに力を与えているのかもしれない。

そして、祭りの根幹を支え続けているのは、安産と子の成長を願う女性の気持ち。どれだけ時代が移り変わっても揺るがない母たちの祈りがあるからこそ、「いのち」をつなぐ祭りでありつづけている。坂本宮司はこう続ける。

「原点はやはり女性のための祭りですから。母の強さ、偉大さを伝えられる祭りにしていきたいですね」



うけつぐ人 山中諏訪神社宮司 坂本任邦さん

宮司として45年間、祭りを見守ってきた坂本さん。「神輿を担いだ翌日に赤ちゃんが産まれたという方もいるんですよ。本当に不思議なくらい、ご利益があると思います」



水辺に希望響かせる 若き鼓動

奥河口湖・長浜ふるさと祭り(富士河口湖町)



河口湖西岸の富士河口湖町長浜地区は、「奥河口湖」の通称を持つ。遊覧船やプレジャーボートが行きかうエリアとは違い、静かでゆったりとした時間が流れている。

その長浜で毎年8月15日に開催されているのが、奥河口湖・長浜ふるさとまつりだ。灯籠流しに盆踊り、500発の花火などのイベントが行われる。中でも、最も時間を割いて行われるのが、中学生による和太鼓演奏。長年祭りに彩りを添えているこの太鼓が持つストーリーを追っていく。

data

日程：8月15日(火) 18:00 から 21:30 まで 富士河口湖長浜の下条浜で / 問い合わせ：奥河口湖観光協会 TEL.0555-82-2128



1. 1,2年生とは思えぬ凛々しい姿 2. 西畑さん、角田さん、土橋さんは同じ2年生。「テスト期間は部活が待ち遠しいよね！」
3. 笛も登場!? 詳しくは当日の演奏で 4. 年4回程度、プロによる指導が行われる 5. 迫力あふれる掛け声 6. ふるさと祭り当日。湖をバックに演奏する 7. OBOGたちとの記念写真。長い歴史を物語る



長浜の未来思い生まれた
手づくりの祭典

40年近い歴史を持つこの祭りは、村を出た若者がお盆くらいは帰ってきてくれるようにと、長浜地区の住民が発案した。長い伝統や由緒があるわけではないもの、それ以来、地元の祭りとして定着。20年ほど前、新しい風を吹き込んだのが、地区にある西浜中学校の太鼓活動だった。

「地元ですからやっぱり特別。他で演奏するより歓声が大きだし、生徒も気持ちいいと思います。一方で、OBOGが必ず見ているわけですから、下手な演奏はできない。緊張感もすごいですよね」(顧問の廣瀬先生)

かくして、すっかり地元で根付いた和太鼓だったが、思わぬ試練が襲う。



うけつぐ人 勝山中学校太鼓部のみなさん

1993年、旧西浜中学校で選択授業として始まった太鼓活動。翌年からは全校の活動に発展。2016年、閉校に伴い勝山中太鼓部として再始動した。



閉校の試練乗り越え 広がった太鼓の音色

2016年3月、生徒数減少により西浜中は閉校。近隣の勝山中学校への統合が決まった。太鼓の存続は白紙だったが、最後には部活動として残ることになった。その原動力となったのが、地元の人々の声だった。

「閉校にあたって、太鼓をなくさないでくれって要望が一番大きかったです。太鼓の音色が、地域の人の心を惹きつけていたんですね」(廣瀬先生)

勝山中太鼓部となった今は、長浜地区以外の生徒も加わり、新曲も完成。新しい伝統が芽吹こうとしている。

「太鼓をたたいて、楽しいと思う気持ち。それを、これからも生徒自身が伝えていければいいと思います」



築400年を超える富士御室浅間神社の本宮。1973年に富士山二合目から移築された写真提供／富士河口湖町



勝山が誇る伝統工芸「スズ竹細工」。受け継がれている理由とは？

エリア特集

ホンモノで勝負！ 個性宿るコンパクトな 勝山



とうもろこし畑の先に、すぐ富士山が。こんな風景も、勝山ならではの

今回取り上げる富士河口湖町勝山(かつやま)地区は、2003年まで村として存在していたわずか4km²の小さなエリア。しかし、この地域にはたくさんの「ホンモノ」がぎっしり詰まっているのだ。世界文化遺産のひとつ「富士御室浅間神社」を中心とした、勝山を取り巻くさまざまな魅力にクローズアップする。

富士ビューホテルから望んだ、初雪の富士山と勝山村(1949年撮影)。当時はまだ400戸余りしかない村だった。
＜出典＞勝山村役場「閉村記念写真集 かつやま永遠に」(2003年)

この周辺はむかし、「かた山」と呼ばれていた。それが戦国時代くらいから、勇壮な「勝山」という呼び名に変わってきたんだそうだ。

村の中心に鎮座するのは、世界文化遺産の富士御室浅間神社。1300年続く富士山最古の神社だ。よく見るとお宮が2つあるが、1つはもともとあった里宮で、朱塗りのほうが富士山二合目から移築された本宮。この地区に小佐野さんが多いのも、神社の別当を務めていた小佐野越後守がルーツらしい。では、庶民の暮らしはどうだった？

「それほど豊かな土地ではありませんでしたから、反物や特産のザルなどを行商で売り歩いていましたよ」とは、道の駅かつやまの小林香織駅長。

「外部との交流が盛んだったので、新しいものを取り入れる力やコミュニケーション力は高いのかもしれない」

洋風ホテルや工場の誘致、インフラ整備などを他村に先駆けて実現できたのも、そんな村の気質によるのかもしれない。それに、なんだか個性的な人が多い気がする。カフェドリームのマスター・小佐野圭章さんもこう語る。

「そうそう、変人が多いの(笑)。でもね、勝山は富士山が一番大きく見える所だし、魅力的な人も多いじゃないかな。さ、とにかく歩いてみてもらえん」

シルベ!

記者が歩いた勝山マップ

シルベ！記者が歩いて探したさまざまなトピックを、マップとともに一挙紹介！

ホンモノの史料！ 本当はすごい「勝山記」

2 014年、富士北麓を140cm超の大雪が襲ったのは記憶に新しい。

「じつはちょうど500年前の1517年12月15日、同じくらいの大雪が降って、135cm以上積もったんです」

こう話すのは、富士河口湖町教育委員会の杉本悠樹学芸員。しかし杉本さん、そんなに昔のこと、何で知ってるんですか？ もしや、タイムマシン……とか？ 「いやいや、この『勝山記』を見れば、全部書いてあるんですよ。他にも、富士山の信仰のこと、地震や雪代といった災害など、富士北麓の社会情勢を含めて詳細に記述されている、とても貴重な史料です」

この史料を大切に守ってきたのが、富士御室浅間神社。小立地区の妙法寺に眠る「妙法寺記」も、同じ書物がルーツだ。ほかの古文書とどう違うんですか？ 「当時の法華宗のお坊さんが、日々起



浅間神社の本宮の前にたたずむ「神使(じんし)の撫牛(なでうし)」。自分の身体の悪い所を撫でてから、牛の同じ所を撫でると病が治るんだとか。
勝山3951 富士御室浅間神社内



富士御室浅間神社

富士御室浅間神社に現存する「勝山記」の写本。戦国ロマンの宝庫だ

北麓初のリゾート “富士ビュー”ヒストリー

1936年、山梨県初の洋風ホテルとしてオープンした富士ビューホテル。1940年に開催が予定されていた東京オリンピック(後に開催権返上)を見越して、外国人旅行者の受け入れ先として建設された。全村を上げての誘致活動が実り、約3万坪の敷地に完成。以来、国内外の

要人や、ジョン・レノン夫妻も宿泊した。現在は桜の名所としても知られている。「土地柄でしょうか、気取らない地

写真提供/富士ビューホテル



域に溶け込んだホテルとしてご好評いただいています。なかには、30泊されるお客様もいるんですよ(営業課長・原田幸二さん)

四季折々の富士山と庭園に心和む、勝山のリゾート。ゆっくり滞在してみたい。

1968年、時の皇太子殿下を出迎えるスタッフたち<出典>勝山村役場「閉村記念写真集 かつやま永遠に」(2003年)



ブラウニー専門店 こいのぼり
東京から移住してきた店主の太田さんが作るブラウニーは、生チョコのように濃厚な味わい。売り切れ次第閉店なので、早めに訪れたい。
勝山3426 TEL:090-6349-3232
◎ 10時~売切次第終了
Ⓜ 月・火(臨時休業あり)

勝山を南北に貫く「中央通り」。周辺は基盤の目状に区画されていて、通りの名前もどこか京都風だ。



ブラウニー専門店
こいのぼり

カフェ ドリーム



カフェ ドリーム
手作リドリアとパフェのお店。人気は、ケーキが一切れまるごと乗ったデカパフェ(1280円)=写真=。胃袋に自信のある読者、お試しあれ!
勝山4822 TEL:0555-83-2040
◎ 12-22時 Ⓜ 不定休

これぞホンモノ

「スズ竹」がいまアツい!



スズ竹伝統工芸センターでは、常時10人近い職人さんが、俊敏な手さばきがカッコイイ。
勝山スズ竹伝統工芸センター
勝山4029-5 勝山ふれあいセンター内
TEL0555-83-2111

400年続くスズ竹細工は、勝山が誇る伝統工芸。その魅力を、スズ竹伝統工芸センターの在る建男さんにうかがった。

「富士山二合目に自生するスズ竹を使って手作業でつくりますから、丈夫で水切れは抜群。丁寧に使えば30年も40年も持つんです」

なるほど。そば屋さんなど、プロからの引き合いが多い理由はそこなんですね。

「おかげさまで生産が間に合わないくらいですよ。みんなゼロからここで教えてますから、やってみてほしい方はぜひどうぞ」

メンバーのほとんどは、リタイアした地元の住民たち。真剣なまなざしでザルを編む姿はまさに職人だ。体験も可能なので、のぞいてみよう。





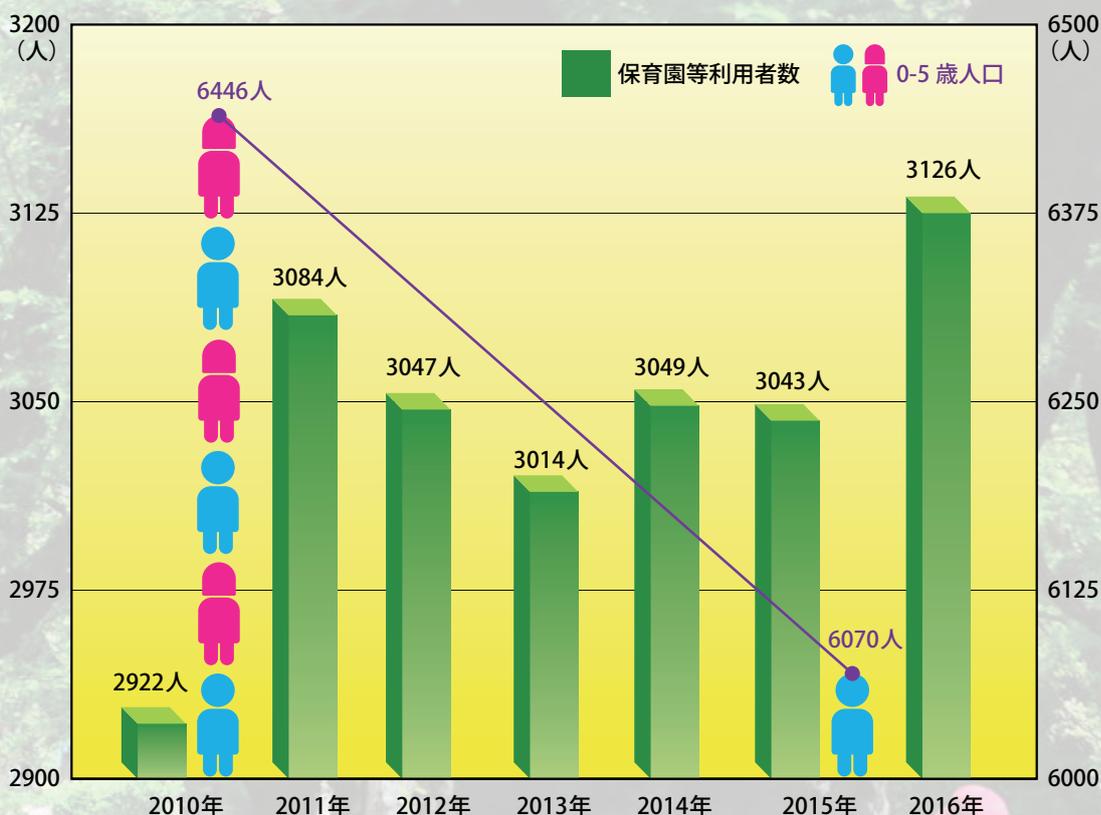
田舎は子どもが減ってるから、保育園は余ってるって聞いたけど？



いいえ。保育サービスの需要は増加しています。

メディアをにぎわせている「待機児童」という言葉。いま、保育園不足が全国的な話題になっています。都市に比べて子どもの数が減っている地方は、比較的恵まれた環境にあるのは事実ですが、本当に保育園は「余っている」のでしょうか。

北麓に関して言えば、答えはNOです。確かに子どもの数は減っていますが、保育園を利用する子どもの数はほとんど増えています。グラフは、富士吉田市・都留市・南都留郡の数を足したデータです。5歳以下の人口は2010年の6446人から5年間で6070人に減少。その一方で、保育



※総務省統計局「平成22年国勢調査結果」「平成27年国勢調査結果成」「統計でみる市区町村のすがた2017」厚生労働省「保育所等関連状況取りまとめ(平成28年4月1日)」より、編集部作成

所等(認定こども園等を含む)を利用する子どもは、2010年の2922人から6年間で3126人まで増加しました。待機児童こそいないものの、この問題は他人事ではないのです。



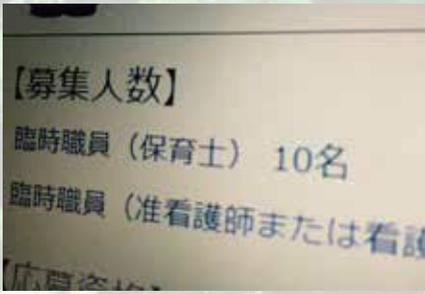
vol.3

本当は足りない!? 北麓の保育事情

富士北麓のトピックスを、独自取材でレポートする「シルベ!レポート」。
第3回は、北麓の子育て、とりわけ「保育」について考えます。
「待機児童」に代表されるように、近年問題になっている保育サービスの不足。
じつは、都会だけのものではありません。北麓の経済にも関わるこの課題にアプローチしていきます。

編集長 佐藤史親

こうした背景から、希望した保育園に入園できないケースも多くあります。個々の保育園の受け入れ能力には限界があるので、すべての希望がかなえられないのは仕方がないのかもかもしれません。が、「自宅から遠い保育園に行かざるを得なくなった」（富士吉田市・30代女性）、「審査が厳しく、なかなか入所が決まらなかった」（富士河口湖町・30代男性）、「中途入園を希望したら無理だと断られた」（富士吉田市・30代女性）といった声は少なくありません。そして、取材を通してとくに需要が高まっていると感じたのは、3歳未満を対象とした「未満児保育」。そもそも定員自体が少ないのですが、産後すぐにも社会復帰したい（しなければならぬ）お母さんのニーズが高まり、さらなる「狭き門」になっていると考えられます。



担い手である保育士も、空前の人手不足。インターネット上で臨時職員を募る自治体も（編集部撮影）



希望どおりに保育園に入れないこともあるの？



はい。多様化するニーズに、供給が追いついていない可能性があります。



なぜ、人口が減るのに保育を充実させる必要があるの？



地域の暮らしと経済を支えることになるからです。

こうした状況の背景には、家族スタイルの変化のほか、共働き世帯の増加が考えられます。もちろん富士北麓地域の各自治体も、手をこまねいているわけではありません。定員や保育士の数を増やそうとしたり、休日保育など柔軟なサービスを実施したりと、様々な手を打っています。

ですが、前述のような理由で保育園をあきらめてしまう人がいる現状は、地域にとつて損害です。保育サービスの拡充で能力ある女性が活躍できれば、労働の生産性は上がりますし、出生率も上がるはず。これは、地域の経済を発展させることにもつながると考えられます。

最初に掲げたグラフが示すとおり、子どもは減っても保育園の需要は増えています。この事実を、もう一度地域全体で考えていくべきなのではないでしょうか。